

令和3年1月1日現在 人口 2,690人 男 1,325人 女 1,365人 世帯数 1,080戸

地域の足を確保する

～「地域バス」への取り組み～

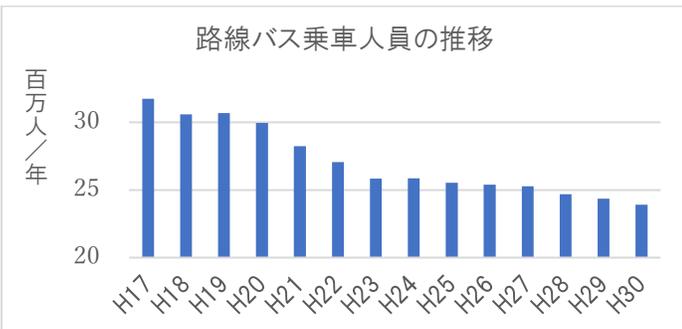


いま、中山間地域はもちろん、都市部でも高齢化が急速に進み、またバスの利用が伸びていないことから、これからの住民の生活に欠かせない交通手段の確保が課題になっています。

このため、「地域バス」の検討が庄内地区で始まっています。現在の状況を、浜松市交通政策課主任の牧野嘉文さんにお話をうかがいました。

－近年の路線バスの利用状況はいかがですか。

平成17年と平成30年を比べると、年間で約780万人減っています。直近の平成28年～30年でも、1年で約46万人ずつ、1日で1,200人利用客が減少しています。



－バスの利用が減ると、バスの運行は難しくなりますね。

そうです。利用者が減れば、運行も厳しくなり、事業者が路線を維持するのはたいへんです。数年前からバス路線の減便や一部区間での路線廃止が多くなってきています。

こうした影響を受けるのが、バス通学の高校生や医療、買い物にバスを利用している人たちです。とくに、高齢者については、高齢化率も市全体で27.6%、北遠地域では6割を超えていますから、高齢者の方の足の確保が重要な課題になっています。

－こうした対策の一つが「地域バス」の運行と聞いていますが、その概要を教えてください。

「地域バス」は、地域・利用者と交通事業者、浜松市が共同して地域の足を支える公共交通のしくみをつくって運行されるものです。

その進め方ですが、移動手段に困っている地域の要望を受けて、地域の人たちと交通事業者、私たちと検討会議を開きます。

この会議でニーズを把握した上で、運行ルートや運行曜日、バス停などを検討し、2年かけて試行していきます。その試行の結果、経費に対して収入が16%以上あれば、同サービスレベルでの運行を継続していきます。

－庄内地区でも検討が始まっているのでしょうか。

既に検討会が開か

れ、いまだのようなニーズがあるかといった調査やバスルートの検討が行われています。

－市内で実施されている事例を教えてください。

市内では、水窪、佐久間などの北遠地域をはじめ、細江、引佐、三ヶ日、さらに都田、鷲沢、浜北など13地域で運行されています。

運行方法には2つあって、決められた時刻・ルートを走る「定時定路線」方式と、路線、時刻を確かめた上で電話などによる事前予約を行う「デマンド運行」方式があります。

運賃は、距離に応じて200円から600円です(※)。(注: 運賃はデマンドでルートがある場合は200～600円、ルートがない場合は300～1,000円です)

※運賃例(距離制)

乗車距離	運賃
～2.9km	200円
～5.5km	300円
～8.6km	400円
～11.7km	500円
11.8km～	600円

注) 大人(中学生以上)運賃。小人半額。

13地域で運行されている地域バス



いなさみどりバス

百古里・只来線 路線図



一利用具合はどうか。

地域の人たちの「新しい足」になっている一方、車を持たない高齢者に固定される傾向が見えます。また新規利用者の開拓も課題になっています。今後も地域の皆さんが一体になって、利用者を増やし、地域の足を守り育てていくことが大切です。

また、このような「地域バス」の検討とともに、なによりもいま運行されているバスを、より多くの方に利用してもらうことも大切ではないかと思えます。バス事業者も高齢者の方の利用が広まるよう努力していますので、ぜひこうしたサービス(※)を活用してみてください。

※遠鉄バス「シルバーワイドフリー定期券」

65歳以上または免許を返納された60歳以上の方が対象。バス(e-wing,e-LineRを除く)、電車全線乗り放題の定期券が、1か月6,100円で購入できます。※「免許返納割引」は初回購入時のみ。



資料：遠鉄バスホームページ

天竜区で運行されている「天竜かれあいバス百古里・只来線」のデマンド路線

取材を終えて

庄内地区のバス路線は、村檜からは白洲經由浜松行きと弁天島への路線がなくなり、公共交通機関の空白地が広がっています。

人口増が今後多くは見込めない中、残念ながらバス利用も減っていく恐れがあり、事業者のバス路線維持も決して楽観できません。

一方、利用者も、単身高齢者や高齢者のみの世帯が増え、車を運転するのが難しいと感じる方も多くなっています。

こうした状況を見ると、いまから将来の通学、買い物、医療などへのアクセス(利用や接続)の確保について、考えなければならない時期にきています。

このような課題に、さまざま地域で取り組みが進んでいて、その採られている方法は、大別して2つです。一つは、移動販売車や往診のようにサービスを届けてもらうもの、もう一つがサービスの場所に出かけるための交通機関の整備で、「地域バス」は、この方法になります。

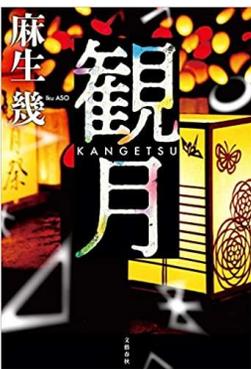
さらに、後者の方法の中にも、①市町村が地域、事業者と共同してかかわるもののほか、②自治会やNPO法人など地元に着目した団体が国の許可を得て運行する「公共交通空白地有償運送事業」、③社会福祉協議会などが家事支援の一つとして行っているものがあります。

地域のニーズや実情を踏まえたさまざまな角度からの検討が期待されています。



ユーカリ文庫 案内

麻生幾「観月」
文藝春秋(2020)



二日間で読み終えた。後半は一気に読んでしまいたくなる緊張感と加速感が光る一冊。

情緒あふれる城下町、大分県杵築市で進む、幻想的な光に包まれる「観月祭」の準備。主人公で伝統工芸作家の波田野七海の身に起こる不可解な事件。なじみのパン屋の妻の絞殺体。

時を同じくして東京多摩川沿で発見される首なし死体。それは不連続殺人事件になるはずだった。二つの事件の間に張り巡らされた網の目が浮かび上がらせる真実とは。(さ)



かたぱんや 489-2162

松田圭司さん 孝枝さん

トントンとリズムカルに押さえると手のひら大に生地が広がり、焼かれた小麦粉から香ばしいかおりが広がってきます。

大正時代から続く村檜名物のかたぱん。四角な堅パンはありますが、圭司さんと孝枝さんのつくるそれは、ゴマや青ノリがのる丸型。忍者の里・伊賀の堅焼が伝わったものだそうです。

「一枚一枚ていねいに」が信条の「焼き」の圭司さん、「将来は『サロン』のようなところになりたい」と「練り」の孝枝さん。息の合ったご夫婦がつくるかたぱんは、素朴な味わいがつまっています。



自治会の活動予定



自治会事務所・村檜会館
053-489-2002

4月	8 回覧物配布 11 ポンプ点検 16 役員会 17 組長会 22 回覧物配布 29~5/5 自治会事務所閉鎖	15 ふれあい花壇植替え／通常総会 16 津波避難訓練・起震車体験 21 臨時会館運営委員会役員会 22 回覧物配布 24 会館利用団体との懇話会 納涼祭実行委員会 30 戦没者慰霊平和祈念式
5月	6 広報委員会 7 回覧物配布／部長会 9 ポンプ点検	